

平成13年5月25日

パナマ運河流域保全計画 ベースラインサーベイ結果要旨 No.1

1. 社会経済

対象地域	El Cacao行政区 (Ciri川及びTrinidad川の上流域) 10集落 (Ciri川流域～Bajo Bonito, El Jagua, Ciri Grande, Ciri Grande Arriba) (Trinidad流域～El Cacao, Aguacate Arriba, El Cauchal, El Cruce, El Nazareno, Trinidad de las Minas)
対象世帯数	100世帯 平成13年度対象の11グループ (表1-2) から、対象世帯数が各グループ 毎に10%以上になるよう抽出
対象者数	200名 (女性100名、男性100名) 各世帯から女性1名、男性1名 (母子家庭の場合は母親と年長男子、 父子家庭の場合は父親と年長女子が回答)

平均世帯構成人数	5.8人 (パナマ共和国平均4.2人)
世帯構成人数579人のうち570人 (98.4%) が居住	
性別人口	女性100人当たり男性124人
出身地域	パナマ県63%、コロン県31%、ベラガ77県3%、コロン県2%、その他1% (パナマ県はコロン県の出身者の子孫と推測され94%がコロン県からの移住者 という計算になる。伝統的にコロン出身者は小規模な焼畑自給農業 に従事する傾向があり、中流域及び下流域に多い放牧中心に行う刈 払いと出身とは異なっている。)

表1-1 対象集落人口

対象集落	集落人口	集落世帯数
Bajo Bonito	301	51
El Jagua	62	12
Ciri Grande (Triple C)	332	64
Ciri Grande (Union)	165	23
Ciri Grande Arriba	482	110
El Cacao (Triple C)	236	51
Aguacate Arriba	92	16
El Cauchal	76	16
El Cruce	71	12
El Nazareno	506	104
Trinidad de las Minas	2,323	459
合計		

表1-2 対象グループ概略

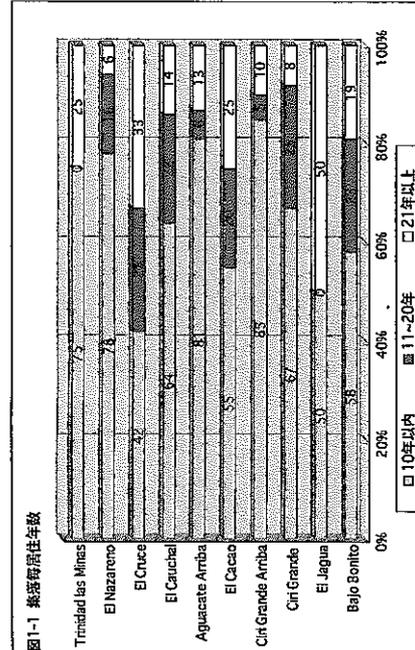
対象グループ	グループ メンバー	女性 メンバー	男性 メンバー	アンケート 世帯数	グループ 略歴
Bajo Bonito	22	8	14	13	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
El Jagua	21	6	15	3	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
Ciri Grande (Triple C)	22	3	19	10	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
Ciri Grande (Union)	14	5	9	8	Triple C 苗畑グループ有 USAID による「コヘーブ」プロジェクトに参加し たが、現在はプロジェクトなし
Ciri Grande Arriba	19	7	12	10	JICA の PRA により 99 年に組織化さ れ、その後稲作等を実施している
El Cacao (Triple C)	11	4	7	22	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
Aguacate Arriba	26	8	18	8	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
El Cauchal	23	9	14	7	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
El Cruce	13	3	10	6	MARENA プロジェクトに参加半年参加し たが、現在はプロジェクトなし
El Nazareno	17	6	11	9	今回初めて組織化されたグループであ り、他のプロジェクトの参加経験なし
Trinidad de las Minas	12	0	12	4	Triple C 村落委員会 Triple C 苗畑グループ有
合計	200	59	141	100	

データソース: 1990年のデータ

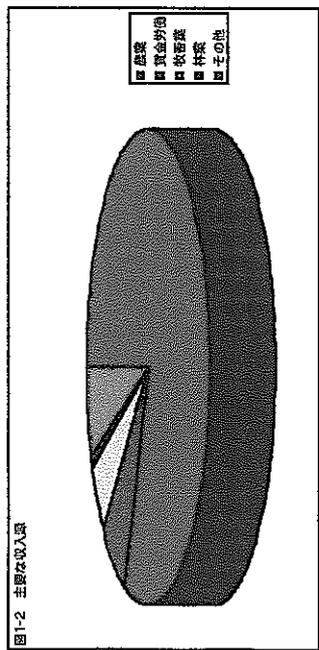
パナマ運河流域保全計画 ベーシック・インシヤン・ベイ 結果要旨 No.2

表1-3 グループ毎の主要産業

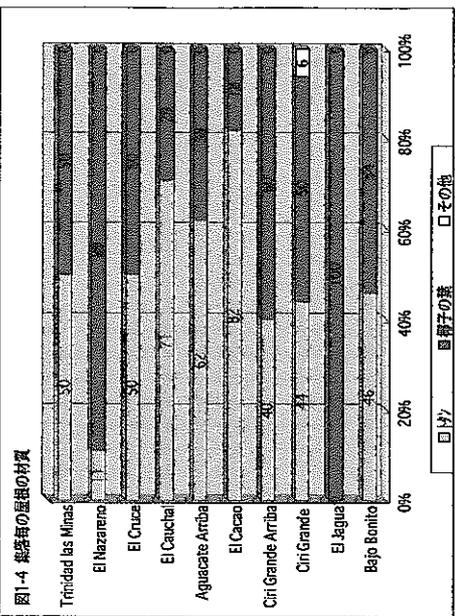
グループ	農業	畜産	林業	製造業	その他
Bajo Bonito	10	-	1	1	1
El Jagua	3	-	-	-	-
Ciri Grande (Triple C)	14	1	-	2	1
Ciri Grande (Union)	6	2	-	-	2
El Cacao (Triple C)	17	1	-	3	1
Aguacate Arriba	6	1	-	1	-
El Chuchul	7	-	-	-	-
El Cruce	5	-	-	-	1
El Nazareno	9	-	-	-	-
Trinidad las Minas	4	-	-	-	-
平均	8.1	5	1	7	6



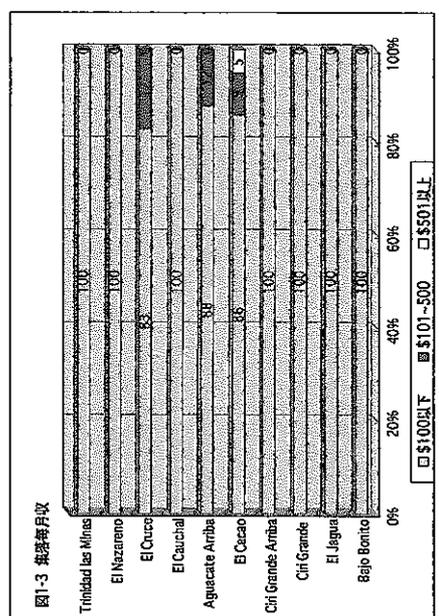
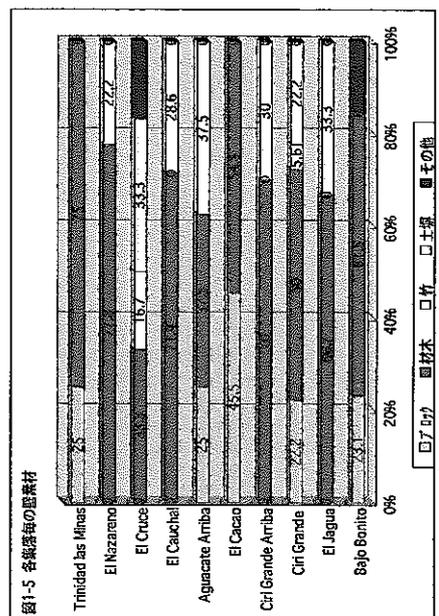
全体では65%が現在の集落に居住年数が20年以上であり、親の代以前に移住したメパ-が大半を占める。グループ毎の違いを比較すると、El Cruce、El Jagua、El Cacaoは居住年数が少ないメパ-が多く、Ciri Grande、Aguacate Arribaは居住年数が多いメパ-が多いという特徴が解った。



対象者の87%が農林業で生計を営んでおり、その他の現金収入の機会が極めて少ないことが理解出来る。農林業に多くの問題を抱えている現状（詳細は次ページ以降に記載）では、メパ-にとっても生活向上の意味からも生産システムを改善するニーズが高いことが解る。



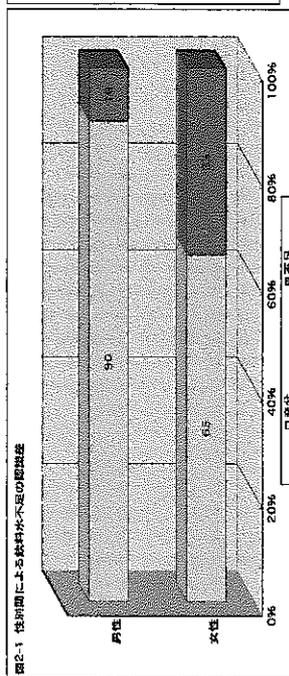
屋根の素材は全体ではトタン板と椰子の葉がおおよそ50%を占めた。各グループ毎を比較するとEl JaguaとEl Nazarenoではトタン板の割合が82%を占めている。壁の素材は全体では58%が木材で半数以上を占めた。なお、El Cacaoでは45%をブ-ロツクが占めており、他のグループとは大きな違いが見られる。



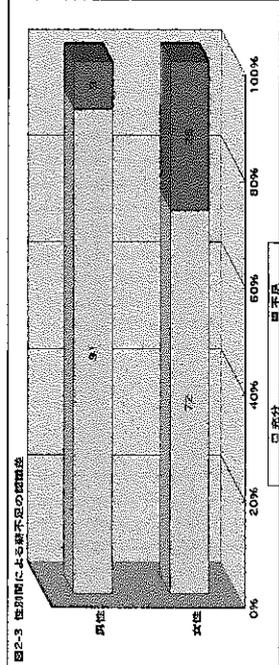
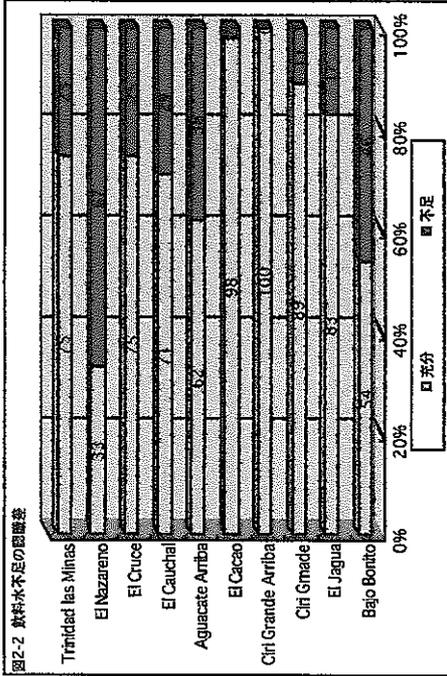
パナマ運河流域保全計画 ベーシック・ライン・サバイ結果要旨 No.3

2. 生活 (水、薪、葉草)

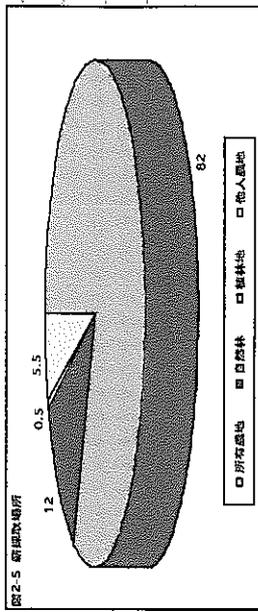
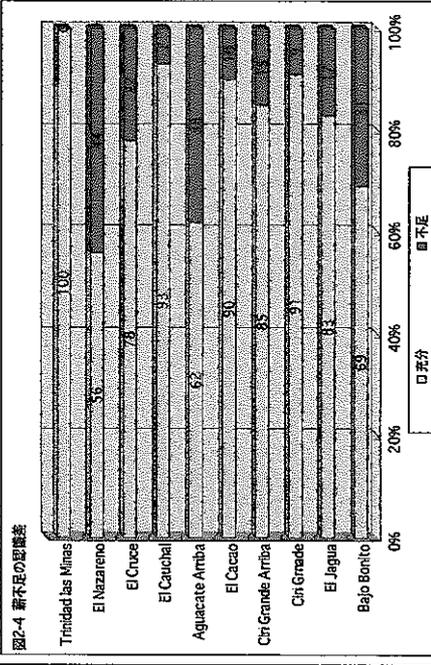
飲料水は83%が塩ビ管による簡易水道から、12%が井戸か全家庭の95%が薪で、5%がガスで調理を行っており、木炭から、5%がその他から採水している。対象者の78%が飲料水を使用している家庭は一つもなかった。対象者の81%が薪の入手は充分と考え、22%が不足と考えている。ただし、の入手は現在のところ充分と考え、19%が不足と認識して性別の比較を行うと女性の方が飲料水不足を深刻に受け止めている。ただし、性別の比較を行うと女性の方が薪不足を深刻に受け止めていることが分かり、女性の意見形成して薪材の植林を行う等の検討を行う下地があると思われる。



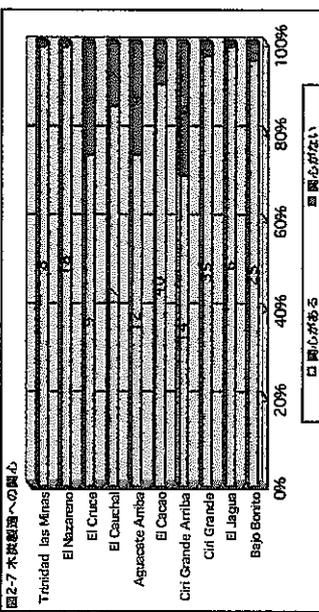
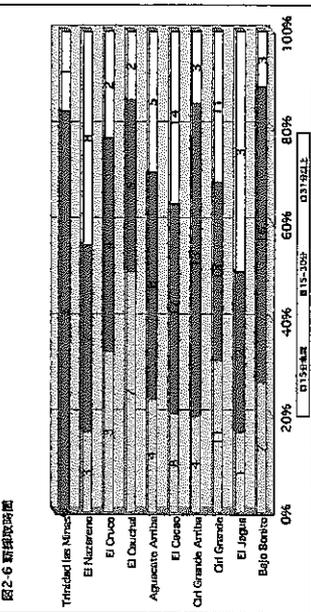
グループ毎の比較では、El Nazarenoで67%、Bajo Bonitoで46%が飲料水不足の問題を抱えており、活動項目を決定する際に考慮する必要がある。



グループ毎の比較では、El Nazarenoで44%、Aguaicate Arribaで38%が薪不足の問題を抱えているおり、活動項目の決定にあたっては薪材植林及び木炭生産等を考慮する必要がある。



8割以上の農民が所有する農地内で薪を採取し、採取時間が長いババほど薪不足を認識する傾向があることが解る。

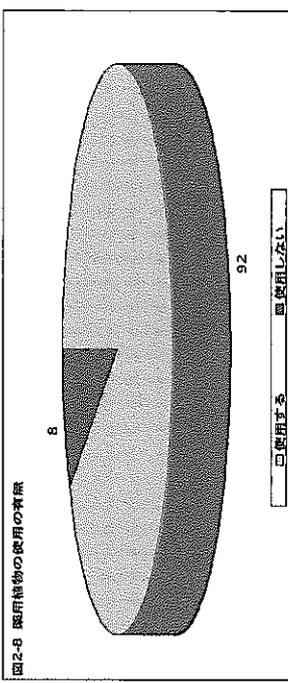


現在木炭を製造している農民が0であることもあり、90%の農民が木炭技術習得に関心を示した。

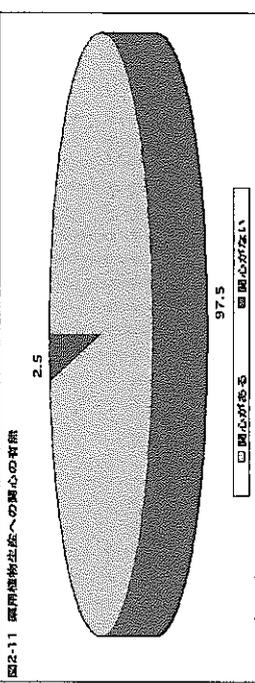
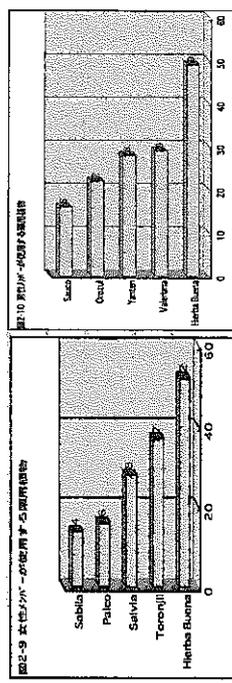
パナマ運河流域保全計画 ベーシック・イン・ザ・ベイス 結果要旨 No.4

3. 土地、労働力

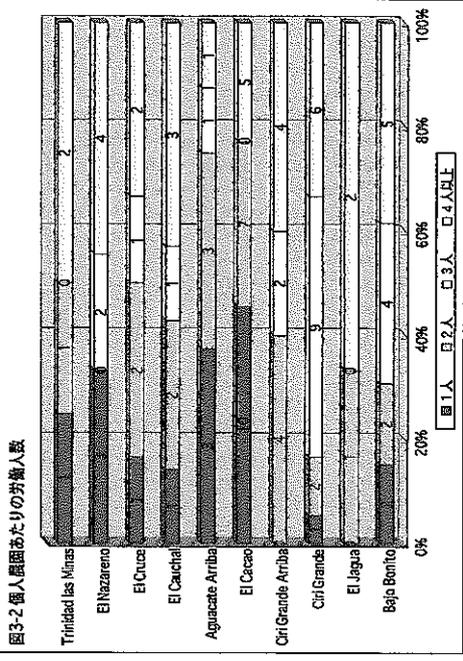
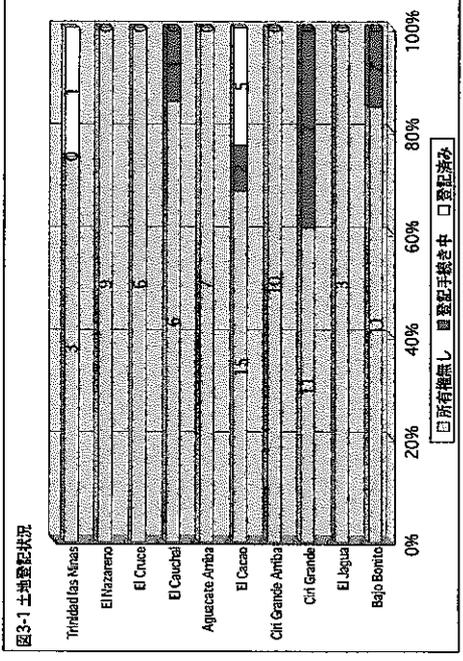
96%の家庭にUSAID支援による保健省アカシラムによりトリノが設置され、他地域の平均よりかなり高い割合になっていることからも、プロジェクト対象地域は農村支援における重点地域であることが理解出来る。健康状態は、25%が良好、71%が普通、4%が悪いと回答した。7ヶ村実施時には乳幼児の健康状態が悪いことを訴える声が多かった。



保健省の出張所はEl CacaoとCiri Grandeにしかないこと、薬が高価であること、伝統的に使用していること等が高い比率の薬用植物使用及び生産希望の理由と推察される。また、性別により使用する薬用植物に大きな差違があり、今後分析を要する。



所有土地面積と利用形態について質問を行ったが、土地登記を行っていないこと、面積を数字で捉える教育を受けていないこと等から参考になる結果は得られなかった。なお、所有権を持たない農民は全体の8割で、すべての農民が登記に関心を示した。



Ciri Grande Arribaでは、すべての個人農園で2人以上が従事している。女性も農作業に参加する他、相互扶助の仕組みがあること等が理由と考えられる。

